

令和8年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修レポート 抜粋

1	私の目の前には思春期真っ盛りのこども達で修学旅行でお風呂の話大声でしている。自分達だけが解る言葉で会話しているがしっかり理解できる。恥ずかしい思いと気を使ってのことだろうと思うと可愛いものである。この子達が、無事大人になれるか心配になる程、身につまされる研修内容でありました。「お誕生日は命の記念日」心にズシンと落ちてきました。
2	幼児～小～中～高校生までの伝え方を丁寧に詳しく説明していただいた。学童期においては、無意識の思い込み偏見を無くすこと、その為には絵本や図解を使ったワークが有効なことを学んだ。絵本等手に入る環境を整えることは、情報共有して行動に移したい。 いのちの安全教育の面でも様々な相談機関があることを知ったので、子どもはもちろん親御さんにも周知させていく環境を作っていきたいと思った。
3	自分は大切な存在であると知ること。自分を大事にする気持ちを持つこと。健康的な関係性を持つことが大事。心の距離感を持つ。アンコンシャス・バイアスという自分自身では気づいていない「無意識の思い込み」や「無意識の偏見」がある。立ち止まって客観的な事実を見て相手の背景に目を向ける。メンタルチェックシステム「こころの体温計」で見るのも良い。生きてるだけで百点満点。人にはそれぞれ個性がある。視点を変え、子どもの個性を良い形で表現する。
4	生まれて来た事が奇跡でもあるので、これからも一日一日を大切にしていかなければと、改めて思いました。 今働いている所では、児童同士ではなく、児童→大人に対して身体を触って来る子が多いので、困っています。 「触られるの嫌だからやめて」とその都度伝えていても、触って来ます。 資料にあった「ふれあいサイコロゲーム」が凄く良いなと思ったので、参考にし活用して、人の嫌がる事はしてはいけない。と言う事を伝えていけたらと思いました。

5	多分この様な内容の研修は初めて受講したかと思います。今の時代に必要で大事な事なので、学ぶことができ良かったと思います。学校の授業で取り上げられてる事もあり、私の方の学童では子供達へその様な学習の機会を設ける事はないですが、思春期を迎える時期に来ている子供達に何かの機会に伝えることができるのではないかと感じました。関連のサイトを教えてもらったことで、必要に応じて保護者の方に働きかけたり、自分自身の子供にも伝える事ができて良い研修だったと思います。
6	先生の講義を聞いている時に、何十年も前に私の育った地域で小学5年生の女の子が妊娠し、出産した事を思い出しました。（中学生男子が父親）今、学童にいる子どもが同じように妊娠したら…と思うと動揺しかないかもしれませんが、やはり早めに性教育が必要なんだなと思いました。私の勤務している学童ではこれと言って性教育はしておりませんが、もし何か質問があった時には先生の講義を参考にしてわかりやすく子ども達に伝えていければいいなと思いました。
7	小学校高学年になると学校で性教育を受け、ふざけてお友達のからだを触ったり、性的な単語を意味も分かっていない低学年に言わせたりなどと言った行動が目につきます。改めて、プライベートゾーンがあるということや思いやりの気持ちを大切にしてほしいなと感じました。私が学生の頃を思い返すと、性教育についてきちんと学んだ記憶がないので、しっかりと学ぶ機会をつくるべきだなと思いました。